

当協会ホームページの会員用ページに当協会活動を定期的に報告します。

HP 事務局だより 平成24 年4月～5月

平成24 年6月8日 常務理事 事務局長 甲賀 大樹

1. 法人業務

*平成23年度事業報告・収支決算報告監査の実施

5/1、谷口、山本両監事に当協会事務所にご足労いただき、入念な監査を実施していただきました。その結果、前年度に比して、懸案事項であった Dart 償却を実施したこと、経常損益において3期ぶりに黒字となったこと、会員増員施策により財政基盤の強化に光明が見出せたといえるが、継続して安定的な経済基盤の維持に一層努めていくようにとご指摘をいただきました。

平成23年度は会員各位のご協力により経常収支に関しては約100万の黒字となりました。しかしながら、その中身はご寄付（26万）、65歳以上会員の会費一括納入（60万）、FAI公式立会人・日本滑空記章試験員認定料（69万）などで、後2者はいわば複数年分収入を前倒しにいただいたものであり、決して大幅黒字として財政安泰になったと思ってはならないと自戒しております。また懸念事項であったDartの過年度分減価償却を期末に行いましたので、当協会資産総額が約330万円分減り、824万円から580万円になりました。

*公益法人移行認定申請フォロー

3/28に電子申請を行った後、法人移行認定審査に伴う内閣府公益認定委員会からの照会に基づき、指定航空従事者養成施設運営の所管である国土交通省航空局と4/13に移行申請に関する説明面接の他、4/19に内閣府公益認定等委員会事務局と申請内容についての面談を行いました。今後は、申請書が公益認定等委員会に付され、最終審議が始まるものと存じます。認定後2週間以内に登記、その後、現法人の解散（事業報告、決算報告）、新法人の設立総会（事業計画、予算）を行うこととなります。

2. 滑空スポーツ統括・普及事業

*日本滑空界のデータ収集 4/3-5/21

全国滑空52団体に依頼、47団体よりデータをご提供いただきました。いくつかの団体は飛行活動に無関係であることなども分かりました。データ収集期間、用語の定義、重複排除、その他まだ粗削りですが、昨年より多くの団体からデータをいただき、滑空界状況が掴めるようになって来ました。さらに精度を上げるとともに、個人レベルの愛好家からもデータをいただけるようにしたいと存じます。

中間報告は総会議案書に附属させて会員各位にお送りしましたが、ホームページにも掲載してまいります。

団体に所属している会員総数（含重複）3,200名、機体数300機、年間飛行回数45,000回9,400時間など

*事務局から全国滑空団体への情報提供

4/7 自衛隊熊谷基地さくら祭に伴う編隊飛行への対応要請（基地周辺滑空団体）

4/18 航空法一部改正に伴う航空身体検査、練習許可申請の改正に関する通達（全国滑空団体）

4/27 運輸安全委員会より提供された航空安全情報の周知徹底に関する通達（全国滑空団体）

5/23 Lake Keepit Soaring Club（オーストラリア）で開催されるFAI Qualifying Grand Prix 招待状（全国滑空団体）

*BGA (British Gliding Association) Executive Committee Memberの来日・面会
SATA 日口裕二さんの友人であるAndrew Perkins 氏が来日し、日口さんに同席してお会いしました。彼はまだ30代前半で、BAのB-777キャプテンです。英国の2002年Junior Championであり、また最年少でRegional Examiner (英国内にある全85団体の滑空クラブ内のインストラクター統括者)に就任しており、総飛行時間2,500時間(グライダー)、3ダイヤモンドを保有しています。現在、若いパイロットの育成に注力している一方で、BGA運営全般にも精通しており、様々な質問に丁寧にお答えいただきました。1928年の設立後、英国内の滑空活動全般に渡って管理をしているBGAとJSAとではその制度上の差はあるにしても、組織として大変丁寧に滑空愛好家との絆を構築している様子に感銘を受けました。趣味の会において絆が全てなのは世界共通なのでしょう。

英国滑空界概要

滑空団体数：85団体 会員総数：9,462名 滑空機数(含MG)：2,310機 BGA予算：約8,000万円 会費3,500円 BGAオフィスはフルタイム4名、パートタイム4名で運営など。

3. 滑空スポーツ愛好者育成事業

5/31 指定航空従事者養成養成 第1期関宿コース修了 2名

4. 滑空スポーツ競技会関連事業

*第30回久住山岳滑翔大会 4/30-5/5 於久住滑空場

基本滑翔競技の部(インストラクター同乗による基本操作)支援 : 滑空奨励努力賞授与
優勝 園山友紀(大阪工業大学)

*第8回おおのローズカップ 5/4-6於大野滑空場 名義後援

以上